

# 北海道肢体不自由特別支援学校寄宿舎における余暇活動 について

Leisure Activities in the Dormitory of Hokkaido Special Support School  
for the Physically Disabled Children

阿 部 達 彦	瀧 澤 聡
ABE Tatsuhiko	TAKIZAWA Satoshi
石 川 大	磯 貝 隆 之
ISHIKAWA Dai	ISOGAI Takayuki
伊 藤 正 勝	松 井 由 紀 夫
ITO Masakatsu	MATSUI Yukio

北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要  
第12号 2021

# 北海道肢体不自由特別支援学校寄宿舎における 余暇活動について

Leisure Activities in the Dormitory of Hokkaido Special Support School  
for the Physically Disabled Children

阿 部 達 彦 <sup>1)</sup>	瀧 澤 聡 <sup>1)</sup>
ABE Tatsuhiko	TAKIZAWA Satoshi
石 川 大 <sup>2)</sup>	磯 貝 隆 之 <sup>2)</sup>
ISHIKAWA Dai	ISOGAI Takayuki
伊 藤 政 勝 <sup>3)</sup>	松 井 由 紀 夫 <sup>4)</sup>
ITO Masakatsu	MATSUI Yukio

## I. はじめに

特別支援学校寄宿舎の法的根拠は、学校教育法73条の2「盲学校、聾学校及び養護学校には、寄宿舎を設けなければならない。ただし、特別の事情があるときは、これを設けないことができる」という規定にある。また、第73条の3には「寄宿舎を設ける盲学校、聾学校及び養護学校には、寄宿舎指導員を置かなければならないとしている（山口、2008）

これらのことを受け、現在の特別支援学校では、通学が困難であり、特別の事情がある幼児児童生徒のために、寄宿舎が設けられているが、2007年の特別支援教育への転換がはかられた当時、道立特別支援学校の寄宿舎入

舎幼児児童生徒は、1,943人であったが、2017年には、1,881人に減少している。（北海道立特別支援教育センター、2018）

この要因として、北海道教育委員会は、「できるだけ身近な地域で専門的な教育を受ける機会を確保する」という方針の下、自宅からの通学ニーズに対応するため、対象となる幼児児童生徒が比較的多く居住する地域への学校設置を進めてきたことや、社会全体において、福祉サービスの充実が図られてきたことなどを挙げている。（北海道立特別支援教育センター、2018）

一方、特別支援学校に就学・進学する幼児児童生徒や保護者の中には、寄宿舎を通じ、規律のある生活リズムや社会性を身に着けた

- 
- 1) 北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科
  - 2) 北翔大学教育文化学部教育学科
  - 3) 北翔大学非常勤講師
  - 4) 北海道岩見沢高等養護学校

い]、「集団生活を通じ、コミュニケーション能力を高めたい」等の理由により、寄宿舎への入舎を希望するケースも見られており、各学校や寄宿舎では、相互の連携を深め、多様化するニーズに的確に応えることが求められている。(北海道立特別支援教育センター, 2018)

さらに、特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の障害の重度・重複化、多様化が進む中で、子供たちの健康や安全を守るため、学校生活や寄宿舎生活の様々な場面で適切かつ慎重な対応を講じることが必要になっている。(北海道立特別支援教育センター, 2018)

このような中で、北海道教育委員会は、1988年から北海道特別支援教育センター等において寄宿舎指導員を対象とした研修講座のほか、1995年に「道立特殊教育諸学校寄宿舎生活の指導 Q & A40」を発行し、寄宿舎における指導や支援の充実を図ってきた。

しかしながら、寄宿舎指導員の個々の勤務時間が違うことなどにより、全体での研修の機会確保が限られていることや自己研修の時間が十分に確保できないことなどの課題が挙げられていたが、この課題の対応の一環として、2018年に「寄宿舎指導研修マニュアル」を作成した。この中で、「寄宿舎における今日的な課題と対応」として、1「生活指導の充実」、2「ルールやマナーの指導の充実」、3「社会性の育成」、4「余暇指導の充実」、5「本人・保護者との合意形成」、6「保護者との信頼関係の構築」、7「学者が連携した指導の充実」、8「災害などの緊急時の対応」、9「不審者侵入への対応」、10「情報モラルの指導の充実」11「薬品の適切な管理」など、寄宿舎指導員が日常の指導の場面及び

各種の研修等で活用できる内容と参考事例を盛り込んでいる。(北海道立特別支援教育センター, 2018)

本研究においては、これらの北海道における寄宿舎教育の研究を参考にしながら、重複障害の寄宿舎生が多く在籍している肢体不自由特別支援学校寄宿舎5校の「余暇指導」に焦点を当て、調査した結果をもとに考察する。

また、寄宿舎教育の調査研究としては、2008年に東京都立青鳥養護学校寄宿舎教育プロジェクトが発行した「自立・社会参加を促す寄宿舎教育ハンドブック」や2008年に北海道教育委員会が「寄宿舎に関する調査(寄宿舎設置道立特別支援学校42校)」を実施した内容、及び、2007年に東京学芸大学の伊藤健らが研究発表した「特別支援学校における余暇支援と社会参加に関する実態調査」等があり、これらの文献も研究の参考資料とする。

北海道の道立特別支援学校のうち、約6割に当たる40校に寄宿舎が設置されており、2017年5月現在、1,881名が利用しているが、そのうち20校では、寄宿舎を利用する幼児児童生徒(舎生)が25名以下で、一方6校(知的障害高等養護学校)で、舎生が100名を超えている状況がある。障害種別では、視覚障害特別支援学校寄宿舎設置校4校、聴覚障害特別支援学校寄宿舎設置校5校、知的障害特別支援学校寄宿舎設置校26校、肢体不自由特別支援学校寄宿舎設置校5校となっている。重複障害のある、舎生の割合は、肢体不自由特別支援学校寄宿舎を中心に、全体の23パーセントを占めている。(北海道立特別支援教育センター, 2018)

## Ⅱ. 研究方法

### 1. アンケート調査

北海道の肢体不自由特別支援学校寄宿舎5校に、「余暇指導」についての実施状況の調査アンケートを送付し、回答を集計し、まとめる。内訳は、高等養護学校単置寄宿舎校1校、小・中・高の寄宿舎併設校4校、計5校に、2020年12月、調査を実施した。

### 2. アンケート調査の概要

#### 1) 調査の目的

北海道肢体不自由特別支援学校寄宿舎における「余暇活動」の現状について調査し、肢体不自由特別支援学校の「余暇活動の推進」についての資料を得ることを目的とする。

※肢体不自由児童生徒の寄宿舎生は、他の特別支援学校寄宿舎にも一部在籍しているが、今回の調査は、北海道の肢体不自由特別支援学校寄宿舎に在籍している舎生に限定して、調査し考察する。

#### 2) 調査期間

2020年12月

#### 3) 調査の対象及び調査の配布学校

北海道肢体不自由特別支援学校寄宿舎設置校5校

回答者は、寄宿舎指導員（余暇活動担当者）

#### 4) 調査票回収学校数

5校（回収率100%）

肢体不自由特別支援学校

小・中・高、寄宿舎設置校 4校

高等部寄宿舎 1校（単置校舎）

調査実施校が少ないため、パーセント表示はせず、実数で報告することにする。

## Ⅲ. 調査結果

### 1. 貴校の寄宿舎ではどのような余暇活動を行っていますか。

#### A 寄宿舎

・運動系、音楽系、学習系、料理・調理系、映像・動画鑑賞系、ゲーム・携帯・SNS系

#### B 寄宿舎

##### (男子)

運動系、美術・造形・芸術系、音楽系、学習系、映像・動画鑑賞系、ゲーム・携帯・SNS系

##### (女子)

運動系、美術・造形・芸術系、音楽系、映像・動画鑑賞系、

#### C 寄宿舎

運動系、美術・造形・芸術系、音楽系、学習系、映像・動画鑑賞系、

#### D 寄宿舎

運動系、美術・造形・芸術系、音楽系、学習系、映像・動画鑑賞系、ゲーム・携帯・SNS系

#### E 寄宿舎

運動系、音楽系、映像・動画鑑賞系、

### 2. 運動系の余暇活動では、どのような種目や活動を行っていますか。

#### A 寄宿舎

ゴロ野球やTボールなど

#### B 寄宿舎

##### (男子)

体力づくり関係

##### (女子)

体力づくり関係、トランポリン、ポーリ

ング

C 寄宿舍

トランポリン (週末)

D 寄宿舍

体力づくり関係, トランポリン, ボッチャ, ゴロ野球・Tボール, 自転車・運搬車等の乗り物

(行事や余暇活動で写生の実態に合わせた活動を実施: 子供用プール, 水鉄砲遊び, 雪山づくり, ソリ遊び, フライングディスク等)

E 寄宿舍

体力づくり関係, トランポリン(体育館), ボッチャ (行事), 校舎内外の散歩

3. 美術・絵画・造形等の余暇活動では、どのような種目や活動を行っていますか。

A 寄宿舍

お花, レジン (アクセサリ等), 料理

B 寄宿舍

(男子)

絵画・お絵かき, 工作・造形

(女子)

手芸, 絵画・お絵かき, 習字・文字かき

C 寄宿舍

絵画・お絵かき

D 寄宿舍

絵画・お絵かき, 工作・造形, 写真撮影・ビデオ撮影

(季節感を感じれるような写真を撮影する行事, コスプレをしての撮影会, 雪像づくり, 花火, 折り紙等)

E 寄宿舍

なし

4. 音楽系の余暇活動

A 寄宿舍

楽器演奏

B 寄宿舍

(男子)

歌唱・カラオケ, 楽器演奏, 音楽鑑賞・音楽系CD鑑賞等

(女子)

音楽鑑賞・音楽系CD鑑賞等

C 寄宿舍

音楽鑑賞・音楽系CD鑑賞等

D 寄宿舍

歌唱・カラオケ, 音楽鑑賞・音楽系CD鑑賞等

(個人で聞きたい音楽のCDを持参し, プレーヤー等を使用して視聴)

E 寄宿舍

楽器演奏, 音楽鑑賞・音楽系CD鑑賞等 (行事等で曲に合わせ, 音のなる楽器 (ギロ等) をみんなで鳴らし楽しむ)

5. 学習系の余暇活動

A 寄宿舍

読書, 宿題・勉強・教科等の予習・復習, マンガ本閲覧

B 寄宿舍

(男子)

読書, 宿題・勉強・教科等の予習・復習, マンガ本閲覧

(女子)

宿題・勉強・教科等の予習・復習

C 寄宿舍

パソコンでの調べ学習 (YouTube検索, グーグルマップ閲覧)

D 寄宿舍

読書，宿題・勉強・教科等の予習・復習，  
マンガ本閲覧

(個人の本や，寄宿舍・学校の図書室へ  
行き，絵本や地図等の本を読む)

E 寄宿舍

その他(新聞(道新:「みなみ風」に興  
味があり，事務室へ歩行を兼ねて取りに  
行く)

6. 料理・調理系の余暇活動

A 寄宿舍

調理・食事づくり

B 寄宿舍

(男子)

なし

(女子)

なし

C 寄宿舍

なし

D 寄宿舍

なし

E 寄宿舍

なし

7. 映画・動画鑑賞系の余暇活動

A 寄宿舍

テレビ・ビデオ・DVD等の視聴・鑑賞

B 寄宿舍

(男子)

テレビ・ビデオ・DVD等の視聴・鑑賞，  
ゲーム機器，その他ゲーム

(女子)

テレビ・ビデオ・DVD等の視聴・鑑賞，  
ゲーム機器

C 寄宿舍

テレビ・ビデオ・DVD等の視聴・鑑賞

D 寄宿舍

テレビ・ビデオ・DVD等の視聴・鑑賞，  
ゲーム機器，その他ゲーム

(指導員が作成した行事DVDや家庭か  
ら持参したDVDの視聴，おもちゃ等

E 寄宿舍

テレビ・ビデオ・DVD等の視聴・鑑賞

8. 携帯電話等の使用

A 寄宿舍

携帯ゲーム，SNS通信等

B 寄宿舍

(男子)

なし

(女子)

なし

C 寄宿舍

なし

D 寄宿舍

なし

E 寄宿舍

なし

9. 寄宿舍生活を豊かにして，将来の生活に  
役立つ活動として，どのような活動や体験  
をしているか。

A 寄宿舍

安全かつ自立的に食事ができる練習，安  
全に移動できる練習，自立的な衣服の着  
脱の練習，自立的な排尿・排泄の練習，  
衛生面に配慮した手洗い・うがい・歯磨  
き・洗面等の練習，日常生活が安全に過  
ごせるための行動のコントロールの仕方  
の練習

## B 寄宿舍

(男子)

安全かつ自立的に食事ができる練習, 安全に移動できる練習, 自立的な衣服の着脱の練習, 自立的な排尿・排泄の練習, 衛生面に配慮した手洗い・うがい・歯磨き・洗面等の練習, 日常生活が安全に過ごせるための行動のコントロールの仕方の練習, 日常生活を健康に過ごせるための心身のコントロールの仕方の練習

(女子)

安全かつ自立的に食事ができる練習, 安全に移動できる練習, 自立的な衣服の着脱の練習, 自立的な排尿・排泄の練習, 衛生面に配慮した手洗い・うがい・歯磨き・洗面等の練習, 日常生活が安全に過ごせるための行動のコントロールの仕方の練習

## C 寄宿舍

安全かつ自立的に食事ができる練習, 安全に移動できる練習, 自立的な衣服の着脱の練習, 自立的な排尿・排泄の練習, 衛生面に配慮した手洗い・うがい・歯磨き・洗面等の練習, 日常生活が安全に過ごせるための行動のコントロールの仕方の練習

## D 寄宿舍

安全かつ自立的に食事ができる練習, 安全に移動できる練習, 自立的な衣服の着脱の練習, 自立的な排尿・排泄の練習, 衛生面に配慮した手洗い・うがい・歯磨き・洗面等の練習, 日常生活が安全に過ごせるための行動のコントロールの仕方の練習, 日常生活において, 全般的に自立できるような練習

## E 寄宿舍

安全かつ自立的に食事ができる練習, 安全に移動できる練習, 自立的な衣服の着脱の練習, 自立的な排尿・排泄の練習, 衛生面に配慮した手洗い・うがい・歯磨き・洗面等の練習

10. 寄宿舍において, 平日, 下校してからおやつ終了後の夕食前までの自由時間と夕食後から終身準備までの自由時間に一番多い余暇の過ごし方ベスト3は何ですか。

## A 寄宿舍

1) スマホ 2) 個人所有の遊具 3) テレビ鑑賞

## B 寄宿舍

(男子)

1) テレビ鑑賞 2) DVD・CD鑑賞  
3) その他

(女子)

1) テレビ鑑賞 2) DVD・CD鑑賞  
3) 個人所有の遊具

## C 寄宿舍

1) テレビ鑑賞 2) DVD・CD鑑賞  
3) 個人所有の遊具

## D 寄宿舍

1) テレビ鑑賞 2) 体育館等の遊具で遊ぶ 3) 個人所有の遊具

## E 寄宿舍

1) DVD・CD鑑賞 2) テレビ鑑賞  
3) 体育館等の遊具で遊ぶ

11. 自由時間に舎生が自室以外に使用できる余暇室はありますか。

## A 寄宿舍

男子棟 (3部屋) 女子等 (3部屋)

B 寄宿舍

男子棟（3 部屋）女子等（2 部屋）

C 寄宿舍

男子棟（2 部屋）女子等（2 部屋）

D 寄宿舍

男子棟（0 部屋）女子等（1 部屋）

E 寄宿舍

男子棟（1 部屋）女子等（1 部屋）

12. 余暇活動を進める上で、日課を工夫したことはありますか。

A 寄宿舍

○ある。（余暇活動の確保のため、日課を変更した）

B 寄宿舍

○男子棟ある。

（下校から就寝までの日課を余暇活動を含めて、舎室担当と一緒に毎日確認している）

・女子棟なし

C 寄宿舍

○ない

D 寄宿舍

○ある

（舎生の実態に合わせて指導者数を確保するため、行事を実施する曜日を月曜日の指導者数が一番多い日に変更した）

E 寄宿舍

○ある。（入浴時間を変更し、歩行などをした）

13. 余暇活動を推進する上で、寄宿舍の全体活動や男女棟の活動、部屋活動等について改善や工夫したことがありますか。

A 寄宿舍

・特になし

B 寄宿舍

（男子）

年に5回クラブ活動をしている。

（女子）

時間が合う時に、男女合同で夜の校舎内散歩をした。

C 寄宿舍

・特になし

D 寄宿舍

友達との関係性に配慮が必要な舎生がいるため、なるべく活動場所を別にしたり、同じ空間になってしまっても距離をとったりしている。男子棟2棟、女子棟1棟の変則的な寄宿舍の造りのため、各棟それぞれの舎生の実態に合わせて活動を推進している。

E 寄宿舍

部屋内での舎生及び職員間の距離感を工夫している。

14. 寄宿舍で特徴的な余暇活動があれば記述してください。

A 寄宿舍

音楽サークル、野球サークル、お花、レジンでアクセサリーづくり、お菓子づくり、花火（自由参加）

B 寄宿舍

（男子）

夕食後の学校散歩の実施

（女子）

年5回クラブ活動の実施

C 寄宿舍

（コロナ禍以前）

JRを利用した外出（買い物や食事）



読み聞かせのボランティアさんの来校による交流

ハロウィン仮装をしての校内練り歩き

#### D 寄宿舍

(コロナ禍以前)

一学期の終業式に合わせての寮祭(今年度コロナ禍で未実施)

夏休み後のバス外出行事(福祉バス, 借上げバスを利用しての近郊の施設見学と会食を(夕食)する行事)

#### E 寄宿舍

特になし

### 15. 2020年冬からのコロナ禍において、寄宿舍活動に大きな影響があったことはどのようなことがありますか。

#### A 寄宿舍

- ・歌う活動をやめたり, 生徒同士の間隔や距離を確保したり密にならないよう配慮した。

#### B 寄宿舍

(男子)

教育入舎生が舎を利用できない期間があり, 男女棟を分けての活動になった。

(女子)

誕生会, クリスマス会を男女の棟別に分けて実施した(クリスマス会は同じ内容で行ったが, 誕生会は, 誕生月にばらつきがあるため, 誕生会の内容を変えて実施した)。

ボランティアさんの参加をすべて中止した。

日常の生活を, 男女棟に分けて, 行き来をやめた。

(食事, 行事, リーダー会議などすべて)

#### C 寄宿舍

行事の時, 学校の学部職員に声をかけ, 舎に来てもらい, 児童生徒と一緒に行事を盛り上げてもらっていたが出来なくなった。

外出行事ができなくなった。(今後も見通しが立たない)

#### D 寄宿舍

舎生は, 33名在籍しているが, 大きな集団での活動が制限されてしまったので, 行事・余暇活動の在り方を再検討することになり, 集団の分散化や内容の再検討が必要になった。分散化が必須になったため, 実施できなくなった行事の替わりとして, リモートを利用した他校の舎生と交流するという, 新しい取り組みができた。

集団の分散化のため, 各棟での行事に変更した。その際, 指導員が行事のDVD(指導員が本の読み聞かせや人形劇をしたり, 器楽演奏やダンス, 舎生余興のマジックショー等)を作成・編集し, それを行事として見ることも増えた。しかし, このDVDの作成・編集をする際に使用しているパソコンが, 職員の私物であったり, 学校にもそのような機材(編集ソフト等)が無く, パソコンも古いOSのものしか, 寄宿舍に割り当てられていないので, 限界を感じている。

#### E 寄宿舍

窓の開閉や換気に注意している。また, コロナ禍のため, 2020年度は, 密になる集団の行事や外出等の行事を中止した。友人同士の距離に配慮し, ソーシャルディスタンスを保つ必要がある。

## 16. 舎生数と寄宿舍指導員数（2020年12月 1日現在）

寄宿舍名	舎生等		総計数	寄宿舍 指導員数
	男子舎生	女子舎生		
A寄宿舍	28	25	53	19
B寄宿舍	5	5	10	14
C寄宿舍	6	3	9	14
D寄宿舍	23	10	33	19
E寄宿舍	2	2	4	13
合計	64	45	109	79

## Ⅳ. まとめ

余暇という言葉は、一番ヶ瀬（1994）によると、レジャー（Leisure）の訳であるとしている。日本における余暇のとらえ方は、松原治郎（1977）によれば、「自由な時間の活動」、「生計のための必要な金銭を生まない活動」、「必要性や義務を伴わない活動」、「自らの満足をうるために自由になされる活動であり、その活動を行うこと自体が目的となるもの」、「進んで自己拡充や想像力の発揮を随意に行うことを可能とさせるもの」としている。（伊藤健，2007）

北海道教育委員会は、「道立特別支援学校寄宿舍の現状等」（2018）の中で、余暇活動の充実についての方向性を示している。舎生のライフステージ全体を豊かなものとするため、学校段階から将来を見据え、スポーツ活動や文化活動などを含め、生涯にわたる活動全般を楽しめるように指導することが求められるとしている。その方向性として、生活年齢や発達の状況を踏まえ、公共施設等の利用、地域行事への参加等を通して、友達とともに楽しむことや、他者とのかわり等、活動の幅を広げ、余暇活動の充実を図ることが重要

としている。

その具体的ポイントとして、第1に「スポーツ活動や文化・芸術的な活動のほか、友達との団らんや協力して行う活動を通じ、生活が豊かになるよう指導すること」第2に「舎生が主体的に余暇を選択できるように有益で多様な余暇活動を展開しながら興味・関心を広げ、舎生が実際に余暇活動を選択する経験を積めるよう計画的に指導すること」が必要であるとしている。また、第3に「望ましい生活習慣や生活リズムを保ちつつ、余暇活動に取り組むことができるよう日課等の見直しを行う」こととしている。

その取り組みとして、「余暇活動の設定」、「選択機会の設定」、「生活習慣や生活リズムの確立」は十分に行われているかをチェックし、改善点があれば検討するよう求めている。（北海道立特別支援教育センター，2018）

具体的には、寄宿舍の余暇活動においても障がい者スポーツを積極的に取り入れ、スポーツや競技そのものの楽しさを共感できるように工夫し、障がいの状態等に応じて、ルールを変更するなど、舎生が楽しめるように行うことが大切である。

例えば、重度の重複障害者から健常者まで、楽しく取り組める「レクリエーションボッチャ」や直径91.5cmの円形の輪に向けて、フライングディスクを10回投げ、通過回数を競う「アキュラシーフライングディスク」、規定のディスクを3回投げて遠投距離を競う「ディスタンスフライングディスク」など、寄宿舍においても簡単に楽しめるスポーツがたくさんある。

レジャー白書（2019）によると、余暇活動の参加人口ベスト20は、①国内観光旅行②外

食③読書④ドライブ⑤映画⑥複合ショッピングセンター、アウトレットモール⑦音楽鑑賞(配信, CD, レコード, テープ, FM等)⑧動物園, 植物園, 水族館, 博物館⑨ウィンドショッピング⑩ウォーキング⑪温浴施設⑫カラオケ⑬ビデオ鑑賞⑭SNS等のデジタルコミュニケーション⑮園芸・庭いじり⑯宝くじ(⑮と同率)⑰体操⑱トランプ・オセロ・カルタ等⑲音楽会・コンサート⑳ジョギング・マラソンになっており, 北海道肢体不自由特別支援学校寄宿舎の余暇活動の内容と重複しているものも多い。学校内の寄宿舎での余暇活動ということの制限や, 年齢による余暇活動項目の違いはあるが, コロナ禍以前は, 「外食」「読書」「買い物」「音楽鑑賞」「ウォーキング」「カラオケ」「ビデオ鑑賞」「SNS」「体操」「トランプ, オセロ, カルタ」「音楽会・コンサート」などが, 共通の内容である。

北海道の肢体不自由特別支援学校の余暇活動で, 共通的に取り扱われている余暇活動の内容としては, 行事等の内容も含めると運動系の種目・内容では, 体力づくり関係の種目内容(散歩, ウォーキング, トランポリン等)であり, 高等養護学校では, ゲーム性のあるスポーツタイプの種目も行われている。特に, 寄宿舎では, 限られた余暇活動の時間や少ない寄宿舎指導員の体制から可能なものを, 舎生の個々の状況に応じて実施している。特に一部の肢体不自由特別支援学校は, 高等養護学校を除き, 在舎生が少ないため, 小集団や個別に可能な余暇活動の頻度が高くなる傾向があり, また土日, 祝日には, かなりの数の舎生が家庭に帰省するため, 閉舎状態になり, 余暇活動の時間や実施頻度はそれほど多くならないのが現実である。余暇に使用できる時

間は, 下校から夕食までの時間と夕食から就寝するまでの時間であるが, 下校後, 週に2回程度お風呂があり, 寄宿舎での係活動(舎生会), 男女棟の部屋会議や各舎生の実態に応じた日常生活の活動, また個々の状況に応じた学習と, 舎における行事等があるため, 自由に余暇活動として使用できる時間は少ないのが現実である。

美術・絵画・造形等の活動では, 絵等を書き, 寄宿舎行事等で使用する造形物を作成することが多いようである。個性のある活動では, 高等養護学校の生け花やアクセサリ製作のレジン等があり, 写真撮影(コスプレ撮影会)や, 季節感のある造形活動を取り入れている寄宿舎も見られる。

音楽系の余暇活動では, どの寄宿舎でも行われており, カラオケや, 楽器演奏, CD・DVD鑑賞が行われている。コロナ禍の影響で大きな声で歌唱することや, 集団で集まって歌うような活動が中止になっている現状は, 残念であり, 今後実施方法や内容を工夫して復活させてほしい。

学習系の活動では, 平日の日々の予習・復習などの宿題や読書, 絵本やマンガ本の閲覧が一般的であるが, 時代を反映して, パソコン等を使用した学習も一部には見られる。

料理や食事, おやつづくりなどの調理系の活動は, 舎生の重度・重複化とコロナ禍の影響があるのか, 高等養護学校を除いて, なくなっている。

映画やテレビ, ビデオ, DVD等の鑑賞については, すべての寄宿舎で実施されており, 人気の高い余暇活動である。

スマホや携帯電話を利用したSNS系の活動は, 舎生の実態により高等養護しか行われ

ていない。

将来に役立つ余暇活動については、どこの寄宿舎においても共通した同様の活動に取り組んでおり、コロナ禍の影響もあり、手洗い、消毒、換気、ソーシャルディスタンス等に気を配る教育や活動を実施しているが、マスクにおいては個々の状況により、装着できる舎生と障がいの状況により、難しい舎生がいるなど、個人差が大きい。

余暇活動の充実と改善を図ることは、どこの学校も日課を工夫したり、時代に応じた活動を取り入れるなどしているが、限られた時間と、寄宿舎における施設設備等の課題があり、工夫するにも財政面や指導する寄宿舎指導員の人数等の関係から、限界があるのが見て取れる。

余暇活動で特徴的な活動としては、部活動的な活動を実施している寄宿舎や夜間の活動の工夫等がみられるが、ここ1年のコロナ禍の影響で、乗り物を利用した外出や外食、地域や外部との交流が中止されているのが、残念である。一方、寄宿舎によっては、遠隔・オンラインにより他校の寄宿舎生と交流をしたりする、新たな試みもみられるが、機材等が私物に頼っている現状や無料のWiFi設備がないなど、施設・設備面での立ち遅れがみられる。

今後、コロナ禍に対応した新たな寄宿舎教育やそれに伴う余暇活動を構築する上で、寄宿舎においても、オンライン・遠隔機器の充実と通信環境（WiFi）の整備は急務であること、またそれらの利用に関しての寄宿舎指導員の研修についても早急に対応する必要があると考える。

## 文 献

- 1) 自立・社会参加を促す寄宿舎教育ハンドブック，東京都立青鳥養護学校寄宿舎教育プロジェクトチーム代表山口幸一郎，ジューアース教育新社，2008
- 2) 寄宿舎指導研修マニュアル，北海道立特別支援教育センター，北海道立特別支援教育センター HP，2018
- 3) 伊藤健，菅野敦，橋本創一，浮穴寿香，勝野健治，片瀬浩，特別支援学校における余暇支援と社会参加に関する実態調査，発達障害支援システム学研究第6巻第2号，2007
- 4) 一番ヶ瀬康子，藪田 碩哉，牧野 暢男，余暇生活論，有斐閣，1994
- 5) 日本福祉文化学会，一番ヶ瀬康子，藪田 碩哉，余暇と遊びの福祉文化（実践・福祉文化シリーズ），明石書店，2002
- 6) 北海道教育委員会，特別支援学校の寄宿舎に関する調査結果について，未行刊，2008
- 7) 日本生産性本部，レジャー白書2019，日本生産性本部，2019
- 8) 北海道夕張高等養護学校寄宿舎，余暇の充実に向けた取り組み，未行刊，2015

